

行政視察報告書

1. 委員会または会派等 おおむた・市民党
2. 視察期間 平成 23 年 8 月 22 日 から 平成 23 年 8 月 24 日までの 3 日間
3. 視察先 ・東京都 西東京市 ・埼玉県 久喜市
4. 視察項目 ・中学校完全給食の整備状況について ・コミュニティ推進協議会の取り組みについて
5. 参加者 〔議員〕 猿渡軍紀、吉田康孝 〔同行〕 なし 〔随行〕 なし
6. 考察 別紙のとおり
以上のとおり、報告いたします。 平成 23 年 8 月 28 日 報 告 者 <u>猿 渡 軍 紀</u> 大牟田市議会議長 殿

【別紙】

6. 考察

①東京都 西東京市 人口 197,903 人 面積 15.85 平方キロメートル
一般会計予算規模 676 億 9,600 万円

「視察事項」・・・中学校完全給食の整備状況について

大牟田市では、中学校の給食が実施されていないが、総合計画後期基本計画の中で中学校給食の実施に向けて検討するといった記載がなされ、その後、実施に向けた具体的な調査が開始されたところである。

給食実施までにはクリアすべき問題や検討課題が多々あるものと考えており、その中でも、給食実施の手法をどうするのかについては特に重要な課題であると認識している。こうした観点から、今回、親子調理方式による中学校完全給食を実施した西東京市を視察したものである。

＊親子調理方式・・・調理室を持った学校で（親）、調理室を持たない学校（子）の給食を調理する方式

◎完全給食を実施するに至った背景

西東京市では弁当外注方式での中学校給食であったが、保護者や生徒等へのアンケートでは中学校給食を望む声が多く寄せられたことから、平成 19 年の「学校給食運営審議会」からの答申や、平成 19 年からの「中学校給食検討委員会」でのたび重なる論議を経て、本年 5 月から親子調理方式による中学校完全給食を実施されたものである。（23 年度第 1 期が開始 24 年度から第 2 期が開始とのこと）

◎実施に至るまでの検討概要等

- ・自校方式、センター方式、弁当外注方式、親子調理方式について比較検討。その結果、親子調理方式での実施を決定。決定に至るまでは、給食の暖かさ（メニューによっては冷たさ）が保たれるのか、配送の時間も含めて給食時間の確保が可能か、費用面での比較などを検討したとのこと。
- ・親子調理方式を採用することになったが、親である小学校の調理員の確保や調理室等への設備投資、小学校と中学校の開校日が一致しておらず給食実施回数の問題などについて検討を要したとのこと。なお、調理員は業務委託方式である。
- ・食べ物アレルギー対策や給食費の額や徴収方法についても検討を要したとのこと。

◎所感

- ・西東京市教育委員会の担当者から、調理、配送、配膳、給食、下膳、給食後の返送、食器類の洗浄までのタイムスケジュールを示しながらの説明があり、大変参考となった。

- ・担当者からは、建築物の整備に手間取り、大きな負担になったとの説明を受けた。特に経費は予定の倍以上に膨れ上がったとのことで、その理由としては、建築基準法の見直しによる影響、耐震対策への経費、給食施設とは直接関係のない体育館等への指摘など、こうしたことをクリアーするために経費が膨れたとのこと。事前準備の重要性を認識したところである。
- ・市域が広くなく、親の学校と子の学校が近距離の場合には、親子調理方式はメリットが大きくなると言われており、今後の本市での実施方式を考える上で大変参考となった。

②埼玉県 久喜市 人口 156,387 人 面積 82.4 平方キロメートル
 一般会計予算規模 429 億 7,000 万円

「視察事項」・・・コミュニティ推進協議会の取り組みについて

大牟田市では、校区まちづくり協議会を立ち上げるなどして、コミュニティの形成に力を入れているところである。

こうした中、埼玉県久喜市では、「久喜市鷺宮コミュニティ推進協議会」が積極的な活動を行っており、また設立 30 周年を迎えるなどしており、様々な経験・ノウハウを持つ同協議会について、視察を行ったものである。

◎設立の背景

昭和 54 年に「鷺宮町コミュニティづくり推進協議会」として設立。新旧住民の親睦・交流を目的とし、町内の各種団体を構成員として設立される。なお、現在は合併して久喜市となっており、名称は「久喜市鷺宮コミュニティ推進協議会」となっているが、当時は鷺宮町一町での取り組みである。

地域での祭などに取り組んでいたが、マンネリ化が課題となり、検討委員会で議論した結果、今後のコミュニティ活動は町民が主体的に関われる参加型地域活動を目指すことになった。その後、小学校校区を単位とする地区コミュニティ協議会を設置して、地域の実情に沿った活動を開始されている。この地区コミュニティの正副会長は久喜市鷺宮コミュニティ推進協議会の役員にもなっている。

◎活動の概要

久喜市鷺宮コミュニティ推進協議会では、地域づくりリーダー研修会、先進地視察研修、各種地域行事への支援、広報かけはしの発行などを通じて、コミュニティづくりの推進に尽力され、埼玉県下でも有数の団体へ成長されている。

久喜市鷺宮コミュニティ推進協議会は、五つの地区コミュニティ協議会から成

り、それぞれの地区ごとに特色ある活動を実施されている。組織構成としては、正副会長、運営委員のほか、環境部・福祉部・文化部・健康部・育成部等を設置し、役割分担をしながら活動をされている。活動の具体例を以下に一例として記載する。

- ・ グランドゴルフ大会
- ・ 郷土料理とそば打ち体験
- ・ 資源物回収
- ・ 健康づくり教室
- ・ 花いっぱい運動
- ・ 防犯パトロール
- ・ 元気アップ体操
- ・ ミニ文化祭

等々

◎所感

- ・ 地域の高齢者の方々の団結力、町を守る意識等について、鷺宮総合支所に出向いて聞いてみて、その必要性を改めて実感した。市民意識の醸成といったものには時間がかかるが、市民意識を高めてこそ、少々のことでは壊れない団結力等を生み出す根源になるものと感じた。
- ・ 住民自ら立ち上がり、行政と力を合わせ、補助金を活用しながら、集いの広場や趣味を活かせる場所、コミュニケーションの場となるサロンを立ち上げられており、その運営手法等も含めて大変参考となった。
- ・ 鷺宮町が合併により久喜市となったことで、鷺宮町の結束力等が分散された感があるとのことで、合併はむしろマイナスと感じている市民が多いとのこと。合併とコミュニティの関係の面でも参考となった。